

バングラデシュの貧困の測定基準 － 貧困ラインを中心に分析－

ラマン モハマド アルマヌル

はじめに

1. 世界銀行の測定基準
2. グラミン銀行の貧困基準
3. バングラデシュの貧困の測定基準
4. カシャハル村の貧困基準
5. データ分析と評価

終わりに

はじめに

バングラデシュは、1971年の独立以来国民の生活水準が向上したものの、依然として世界のもっとも貧しい国の一つである。バングラデシュの人口は1億3,700万人（世界の人口比率2.21%）であるが、GDPは610億米ドル（世界のGDP比率0.14%）にすぎない¹。そして国土面積は14万7,570km²（日本の国土面積の約40%）であって、1km²に約928人が住んでいる。GDP成長率は1995-2005年には4.4-6.3%で、物価上昇率は1.9-8.7%（1995-2005年）であった。物価上昇率は
大洪水²と自然災害に見舞われた年には（1997-98年8.7%、1998-99年7.1%、2003-04年5.8%、2004-05年6.5%）特に高くなっている（表1）。

貧困者の発生率は依然として南アジア地域でもっとも高く、貧困者数（10年前とほぼ同じ約5,700万人）もインド、中国に次ぐ世界第3位となっている（世銀2004年）。GDP成長率は平均6%に達しているが、保険、栄養、教育は依然として質の問題を抱えている。女性と子供の栄養状態は改善されているが、栄養不良の発生率は世界でもっとも高い。初等教育の就学率は96%（世銀2005年）に達したものの、中退率は40%以上である。成人男性と成人女性の識字率は上昇しているが、南アジア地域の平均にはまだ達していない（2003-04年バングラデシュでは49.2%、2003年南アジアでは71.9%）³。さらに、洪水、サイクロン、地球温暖化による海面の上昇といった自然災害による被害が拡大する危険性も抱えている。

¹ World Bank [2004b].

² 1998年と2004年の大洪水は、国土のおよそ3分の2に被害を及ぼす過去最悪規模であった。被害人口は約3,000万人であり、そのうち約100万人が家を失っている。

³ World Bank [2004].

表1 バングラデシュ経済・社会の基本指標 (1995-96年～2004-05年)

項目	1995-96	1996-97	1997-98	1998-99	1999-00	2000-01	2001-02	2002-03	2003-04	2004-05
人口 (億人)	1.21	1.24	1.25	1.26	1.28	1.30	1.32	1.33	1.35	1.37
人口増加率(%)	1.8	1.6	1.5	1.4	1.4	1.4	1.3	1.4	1.3	1.3
人口密度 (km ² /人)	827	842	844	856	868	880	892	904	916	928
耕作面積当たり (km ² /人)	—	1,422	1,432	1,442	1,475	1,476	1,495	1,516	1,551	—
GDP (10億タカ) (億米ドル)	1,663.2 408	1,807.0 423	2,001.8 440	2,197.0 361	2,370.9 486	2,535.5 485	2,732.0 475	3,005.8 519	3,329.7 570	3,707.1 610
GDP成長率(%)	4.6	5.4	5.2	4.9	5.9	5.3	4.4	5.3	6.3	6.0
一人当たりGDP (米ドル)	13,769 334	14,739 340	16,078 348	17,395 362	18,511 368	19,525 362	20,754 361	22,530 389	24,628 418	26,898 441
一人当たり成長率(%)	2.4 (91-95年)		3.8 (96-00年)				3.9 (01-05年)			
物価上昇率 (食糧)	6.7	4.0	8.7	7.1	2.8	1.9	2.8	4.4	5.8	6.5
(非食糧)	7.0	3.7	10.5	9.3	2.7	1.4	1.6	3.5	6.9	7.9
	5.8	4.5	6.0	4.0	3.1	3.0	4.6	5.7	4.4	4.3
就学率	—	—	75	95	96	96.5	97	97.3	96	—
識字率15歳以上	48.2	51.2	51.3	—	—	47.5	49.6	—	49.2	—
貧困率(FEI法)	47	46	46.7	44.7	*48.9	—	—	—	42.1	*40.0
MDGs 貧困ライン (一日1米ドル) (93-94年)	28.6	26.7	—	—	36	—	—	—	—	—
乳児死亡率(%) (1年未満)	6.7	6.0	5.7	5.9	5.8	5.6	5.3	5.3	5.1	—
妊婦死亡率(%)	0.44	0.35	0.30	0.32	0.32	0.32	0.39	0.38	0.37	—
出生時平均余命	58.9	60.1	61.5	62.7	63.6	64.2	64.9	64.9	65.1	—
輸入(億タカ)	281.0	305.4	341.9	384.8	421.3	503.7	490.5	559.2	642.6	808.9
輸出(億タカ)	158.8	188.1	234.2	254.9	288.2	348.6	343.7	379.2	448.1	532.3
貿易収支(億タカ)	-122.2	-117.3	-107.7	-129.9	-133.1	-155.1	-146.8	-180.0	-194.5	-276.6
外貨準備高 (億米ドル)	20.4	17.2	17.4	15.2	16.0	13.1	15.8	24.7	27.1	29.3
為替レート(米ドル)	40.8	42.7	45.5	48.1	50.3	54.0	57.4	57.9	58.9	61.4

注1) 年度：7月～翌年6月。

注2) 2006-07年度の人口は1.4億人。

注3) 2005-06年度の人口密度940km²/人。

注4) 1 タカ=約 2 円。

注5) GDP：1998-05年 Ministry of Finance のデータと1995-98年についてはタカからその年の平均為替レート(米ドル)で計算した。

注6) 一人当たり GDP：2005-06年447米ドルと2006-07年482米ドル。

注7) * 貧困率：1999-00年と2004-05年の貧困率はC B N法、D C I 法による貧困率は1999-00年44.3%と2004-05年40.4%。

注8) 外貨準備高：2005-06年34.8億米ドルで、2007年5月15日43.6億米ドル。

注9) 為替レート：2005-06年1米ドル=67.1タカと2006-07年年1米ドル=69.2タカ。

(出所) Ministry of Finance [1999-2007], Bangladesh Bank [2001-06], Bangladesh Bureau of Statistics [2004-07], World Bank [2004 b], Professor's Current Affairs- [2005] より作成。

世界銀行は共通の貧困ラインをすべての国に適用しているが、バングラデシュでは独自の貧困ラインを設けて、それにもとづいた貧困層の推定を行っている。またグラミン銀行も独自の貧困ラインを適用し、貧困線の上に引き上げるために女性を中心に融資活動を行っている。貧困線の上に引き上げるためにまず貧困の測定基準を明確にし、貧困率を決定する必要がある。

本稿の目的は、貧困の測定基準を決定するにはまず食糧貧困ラインを設定し、次に総合貧困ライン（食糧・非食糧）を設定する。そして総合貧困ラインでは、食糧品と非食糧品の割合を明確にする必要であると思われる。そのために諸測定基準の長所と短所を取り上げると筆者が行ったカシャハル村の調査結果を通じて貧困の諸測定基準の評価した上で今後の課題を設定する。筆者が総合貧困ラインは貧困ラインとし、食糧貧困ラインと衣類に対する消費は最貧困ラインとする。

また貧困を集計的に評価する際には、貧困ギャップ、二重ギャップを考慮する必要があると思われる（末尾の補足を参照）。

本稿の論点：

- 第一に、貧困の諸測定基準について考え、
- 第二に、諸測定基準の長所と短所について述べ、
- 最後に、それぞれの測定基準の問題点と今後の課題を設定する。

1. 世界銀行の基準

世界銀行はミレニアム開発目標（MDGs）⁴では、一日1米ドルという共通の貧困ラインをすべての国に適用しているが、「必要最低限の消費生活」は、各国や各国内の各地域それぞれの文化や平等的な所得水準によって異なる。そこで各国に固有の要因について考慮し、それぞれで国に独自の貧困ラインを設けて、それにもとづいた貧困層の推定も行われている。世界銀行によるとバングラデシュでは2000年におけるMDGs貧困ライン、一日1米ドル以上の人口は36%である。MDGsは、2015年までに達成すべき目標は以下の8つを掲げている⁵。

目標1：極度の貧困と飢餓の撲滅

- ・ 1日1米ドル未満で暮らす人口比率を半減する。
- ・ 飢餓に苦しむ人口比率を半減する。

⁴ MDGs（Millennium Development Goals = ミレニアム開発目標）は、1990年代に行われたサミットや国連の一連の会議における議論のもとに、国連、経済協力開発機構（OECD）、国際通貨基金（IMF）、世界銀行によって策定され、2000年9月の国連総会において、149カ国の支持を得て採択された。MDGsは、2015年までに3億を超える人々を貧困から救い、5,500万人を超える乳児死亡率、400万を超える妊産婦の死亡率を低下させ、少なくとも1億2,800万人の児童を新たに小学校に通わせるための国際社会の協調した取り組みを呼びかけている。世界銀行[2002a]。

⁵ 世界銀行[2002a]。

目標 2：初等教育の完全普及

- ・ 男女の差別なく同様に初等教育を完全に修了できるようにする。

目標 3：ジェンダーの平等、女性のエンパワーメントの達成

- ・ あらゆる教育手段でジェンダー格差を排除。

目標 4：子供の死亡率削減

- ・ 5 歳以下の子供の死亡率を 3 分の 2 削減する。

目標 5：妊産婦の健康の改善

- ・ 妊産婦の死亡率を 4 分の 3 に削減する。

目標 6：HVI／エイズ、マラリアなどの疾病の蔓延防止

- ・ 2015 年までに HVI／エイズ、マラリアやその他の疾病の蔓延を防止し、減少に転じる。

目標 7：持続可能な環境作り

- ・ 各国政策に持続可能な開発を組み入れ、環境資源の破壊を防止する。
- ・ 飲料水へのアクセスがない人口の割合を半減する。
- ・ 最低 1 億人のスラム居住者の生活の顕著な改善を目指す。

目標 8：グローバルな開発パートナーシップの構築

- ・ 政府開発援助を増額する。
- ・ 市場へのアクセスを拡大する。
- ・ 債務管理を通じた国の発展の持続可能性強化。

ミレニアム開発目標（MDGs）では、2015年までに飢餓の半減、初等教育の完全普及、ジェンダー格差の排除、子供の死亡率削減、妊産婦の健康の改善等 8 つの目標を掲げているが、カロリー摂取という食料品や非食糧品の項目は明確ではない。

2. グラミン銀行の貧困基準

グラミン銀行の基準では、「貧困」は、土地なし階層ならびに、0.5エーカー未満の土地しか所有しない「機能上の土地なし」（functionally landless）と呼ばれる階層を指している。グラミン銀行のマイクロクレジット・プログラムは、女性の自立のために融資し、貧困線の上に引き上げるとするのは、次のような規準を満たすことだと取り決めている⁶。

⁶ ムハマド・ユヌス アラン・ジョリ、[1997]、p.169。

- (1) 家族は雨をしのげる屋根のある家を持たなければならない。
- (2) 衛生的なトイレ。
- (3) 清潔な飲み水。
- (4) 毎週300タカ返済できる。
- (5) 就学年齢に達した子供はすべて学校へ通う。
- (6) 家族全員が毎日3回食事をする。
- (7) 定期的健康診断を行う。

バングラデシュでは、男性より女性のほうが貧困線を下回っているために、グラミン銀行は女性を中心に融資を行っている。そして、バングラデシュは農業国家で国民の約76.5% (2001年の国調) の人が農村で暮らし、土地所有が貧困層と密接に関係があるため、土地所有によって貧困者を測定を行っている。グラミン銀行は、貧困率の削減、教育の改善、女性の自立、医療の改善等を目標しているが、カロリー摂取量という実際の消費水準や非食糧品に対する消費を反映していない。2004年には、土地なし層の貧困率は51.9% (都市部では45.5%、農村部では57.8%) である。

3. バングラデシュの貧困の測定基準

バングラデシュにおいては、DCI、FEI および CBN という3つの種類の算定方法が貧困ラインの測定に採用されてきた。1973-74年からバングラデシュ統計局 (BBS : Bangladesh Bureau of Statistics) が実施した HES (Household Expenditure Survey) においては、DCI 法および FEI 法による貧困ラインが用いられてきたが、1995-96年に初めて世界銀行の CBN 法による貧困ラインが用いられ、2000年の調査でも CBN 法に基づいて測定が行われた。バングラデシュでは、1994年から統計局の PMS (Poverty Monitoring Survey) において4年に一回貧困ラインの測定調査が行われている。

(1) DCI 法 (Direct Calorie Intake = 直接カロリー摂取量) : 一人当たり一日2,122Kcal 未満が絶対貧困層、同じく1,805Kcal 未満が最貧困層と規定される。2004年に絶対貧困層は40.9% (都市部43.6%、農村部40.1%) であり、最貧困層は18.7% (都市部20.8%、農村部18.2%) であった。DCI 法による貧困率は、1983-84年から2003-04年までに21年間で62.6%から40.9%へと21.7% 減少したが、1988-89年からの16年間では6.9% しか減少していない (表3—1)。1983—84年に貧困率はもっと高くなっているが、その後低下傾向を示し、1988—89年に貧困率ははじめて50%以下になった。DCI 法によれば1988—89年に47.8%に減少したが、CBN 法によると同年の貧困率は57.1%であり、1999—2000年にははじめて50%を下回った。サンプル

調査が行った地域と測定基準の違いによってこうした測定結果の違いが生じたと考えられる。

表 3-1 DCI 法による貧困率の推移(1983-84年～2003-04年)

	1983-84	1985-86	1988-89	1991-92	1995-96	1998-99	1999-00	2003-04
貧困層								
全国	62.6	55.7	47.8	47.5	47.5	46.2	44.3	40.9
都市部	67.7	62.6	47.6	46.7	49.7	49.9	52.5	43.6
農村部	62.0	54.7	47.8	47.6	47.1	45.6	42.3	40.1
最貧困層								
全国	36.8	26.0	28.0	28.0	25.1	24.9	20.0	18.7
都市部	37.4	30.7	26.4	26.3	27.3	27.3	25.0	20.8
農村部	36.7	26.3	28.6	28.3	24.6	24.5	18.7	18.2

(出所) Ministry of Finance 2002,2004,Bangladesh Bureau of Statistics (Household Income & Expenditure Survey=HIES-2000),PMS-2004より作成。

DCI 法用いたデータの各年度の比較が可能である（1973年度からデータが存在する）が、カロリー摂取量は生活水準の一側面のみしか表さず、個人の実際の消費水準を反映していない。また貧困率の測定には非食糧品を基準としていない。

(2) FEI 法 (Food Energy Intake = 食糧エネルギー摂取量)：一人当たり一日のカロリー摂取の基準値を、農村部で最低2,122Kcal、都市部では最低2,112Kcal と定め、加えて非食料支出も考慮に入れて貧困ラインを設定し、これを実現するのに必要な月収を算出している。1995年の貧困ラインは、都市部が707.8タカ/月、農村部が419.7タカ/月、2004年の貧困ラインは、都市部が905.9タカ/月、農村部が594.6タカ/月となる⁷。2004年に貧困率は42.1%（都市部37.9%、農村部43.3%）である。FEI 法による貧困率は、1995-96年から2003-04年までの9年間で4.9%に減少した（表3-2）。

表 3-2 FEI 法による貧困率の推移(1994-95年～2003-04年度)

(%)

	1994-95	1995-96	1996-97	1997-98	1998-99	2003-04
貧困層						
全国	—	47.0	46.0	46.7	44.7	42.1
都市部	43.3	44.4	43.4	44.3	43.3	37.9
農村部	46.8	47.9	46.8	47.6	44.9	43.3

(出所) 国際協力銀行 [2001], p.7 (BBS-PMS-1998-99,2003-2004,BBS & CIRDAP-1995-98)。

⁷ Ministry of Finance [2005], “Bangladesh Economic Review 2005”, p.164.

F E I 法では実際の消費水準を反映しているが、貧困が時間やグループ（農村部・都市部）をこえた同一の実質的購買力を表していない。また非食糧品の項目は明確ではない。

一人当たりの収入と支出

バングラデシュの一人当たり一ヶ月の収入は、1999年の948タカから2004年には1,114タカになった。貧困層では同じ期間に602タカから631タカになった。非貧困層の収入は、1,228タカから1,466タカになった。都市部では、1999年に全体、貧困層、非貧困層の収入は1,678タカ、902タカ、2,270タカから2004年には1,923タカ、922タカと2,532タカに増加した。農村部では、839タカ、559タカと1,067タカから897タカ、562タカと1,152タカに増加した。

一方、1999年の貧困層と非貧困層一人当たり一ヶ月の支出は、全国平均で824タカ（貧困層446タカ、非貧困層1,128タカ）から、2004年には全国平均で979タカ（貧困層482タカ、非貧困層1,341タカ）へと増加した。都市部では、全国平均で1,285タカ（貧困層613タカ、非貧困層1,798タカ）から、全国平均で1,627タカ（貧困層641タカ、非貧困層2,228タカ）へと増加した。農村部では、全国平均で755タカ（貧困層422タカ、非貧困層1,026タカ）から全国平均で805タカ（貧困層445タカ、非貧困層1,080タカ）となった（表3-3）。2004年では一人当たり一ヶ月の支出の貧困ラインは、都市部では905.9タカ、農村部では594.6タカとなっており（Ministry of Finance、2005年 p.164）、都市部では貧困層の一人当たり支出は641タカ、農村部では445タカで、貧困ラインを大きく下回っている。収入から見ると、都市部では貧困ラインをやや上回り（922タカ）と農村部では下回って（562タカ）いる⁸。

表3-3 一人当たり一ヶ月の収入および支出

（単位：タカ）

	一人当たり一ヶ月の収入						一人当たり一ヶ月の支出					
	1999			2004			1999			2004		
	全体	貧困層	非貧困層	全体	貧困層	非貧困層	全体	貧困層	非貧困層	全体	貧困層	非貧困層
全 国	948	602	1,228	1,114	631	1,466	824	446	1,128	979	482	1,341
都市部	1,678	902	2,270	1,923	922	2,532	1,285	613	1,798	1,627	641	2,228
農村部	839	559	1,067	897	562	1,152	755	422	1,026	805	445	1,080

（出所）Ministry of Finance 2002, 2004, Bangladesh Bureau of Statistics : PMS-2004より作成。

収入別でみると、1999年から2004年までに17.5%（都市部14.6%、農村部6.9%）伸びており、非貧困層の収入の伸び率は19.4%（都市部11.5%農村部8.0%）になったが、貧困層の収入は4.8%

⁸ 貧困ラインは、1995年に都市部では707.8タカと農村部では419.7タカであり、物価上昇によって2004年に905.9タカと594.6タカとなった。

(都市部2.2%、農村部0.5%)しか伸びていない。また支出でみると、その伸び率は18.8% (都市部26.6%、農村部6.6%)であり、非貧困層の場合支出率は収入の伸び率を下回り18.9% (都市部23.9%、農村部5.3%)になったが、貧困層の支出率は収入の伸び率を上回り8.1% (都市部4.6%、農村部5.5%)となった。一般的に、バングラデシュでは貧困層は貯蓄ができない状況におかれているとされているが、データをみる限り収入より支出が少ないため、貯蓄が可能だと思われる。農村部の貧困層の収入は、バングラデシュの貧困ラインを下回る。なお、このデータの収集に問題があり、とくに非食料品に対する支出が含まれているかどうかが明確になっていない。

(3) CBN 法 (Cost of Basic Needs = 基本的ニーズのコスト) :

- ① 食料貧困ラインは12種類の品目⁹ (DCI 法の品目と同じ) からなる既定のカロリー所要量2,122Kcalに見合う食糧品 (フード・バスケット式) および非食糧品などの基本的ニーズを貧困ラインとして設定している (別添2)。
- ② 貧困ライン: 食糧貧困ラインに等しい食糧消費を有する世帯を仮定し、その世帯の非食糧品¹⁰への支出を加えて貧困ラインを設定している。
- ③ 最貧困ライン: 食糧貧困ラインに等しい総消費 (食糧・非食糧) を有する世帯を最貧困ラインと設定している。その世帯は食費に浪費する余裕がないので、非食糧品への支出は真の必需品である¹¹ (別添1)。

表 3-4 CBN 法による貧困率の推移(1983-84年~1999-2000年) (%)

	1983-84	1985-86	1988-89	1991-92	1995-96	1999-00
貧困層						
全国	58.5	51.7	57.1	58.8	53.1	49.8
都市部	50.2	42.9	43.9	44.9	35.0	36.6
農村部	59.6	53.1	59.2	61.2	56.7	53.1
最貧困層						
全国	40.9	33.8	41.3	42.7	35.6	33.7
都市部	28.0	19.9	22.0	23.3	23.3	19.1
農村部	42.6	36.0	44.3	46.0	39.8	37.4

(出所)国際協力銀行 [2001], p.6 (BBS-HIES-2000、World Bank、Bangladesh : From Counting the Poor to Making the Poor Count - 1998.

⁹ バングラデシュでは、料理を作る際に最も重要であり、そしてカロリーも摂取できる香辛料は、フード・バスケットに含まれていない。

¹⁰ 非食料品目は衣類、居住、教育と医療サービスである。農村部では非食料品は食料品の30% (Hossein and Sen [1992]) と都市部では40% (Sen and Islam [1993]) と設定しているが、Rahman and Haque [1988] は農村部と都市部とともに25%と Ravallion and Sen [1996] は35%と設定した。Quentin T. Wodon [1997], p.96.

¹¹ 国際協力銀行[2001]。

2000年の貧困率は49.8%（都市部36.6%、農村部53.1%）であり、最貧困率は33.7%（都市部19.1%、農村部37.4%）である¹²。1988-89年から1991-92年にかけて貧困率は一時的に上昇したが、1983-84年から17年間で貧困率は8.7%、最貧困率は7.2%に減少した（表3-4）。

CBN法では、実際の消費内容を反映しているが、非食糧品の項目は明確ではない。

4. カシャハル村の貧困の測定基準

カシャハル村は、ボグラ県シャリアカンディ・タナ（郡）に属し、ボグラ県の県庁から約37km東にある。この村の人口は2,361人で574世帯が住んでいる。全世帯の70%以上は貧困層であり、この貧困層の約半分以上の世帯は最貧困である。またシャリアカンディ郡はバングラ河とバングラデシュの第3大河の一つであるジャムナ河の間にあり、ちょっとした洪水だけで被害を受けるバングラデシュの中で最も貧困層が多い地域である。カシャハル村はシャリアカンディ役場より10Km東にあり、ジャムナ河の最も近い位置にある。

カシャハル村では、一人当たり一日カロリー摂取の基準値（2171 Kcal）と非食糧支出に基づいて貧困ラインを設定し、これを実現するのに必要な月収を算定した。2007年のカシャハル村の貧困ラインは1,123タカ/月と設定し、食糧品に対しての支出は714タカであり、非食糧品（衣類、医療、交通費、教育、燃料）に対しての支出は409タカとなった。これに基づけば、総消費量に対する食糧品支出は63.6%であり、非食糧品支出は36.4%である。カシャハル村はシャリアカンディ・タナ（郡）の中で貧困率が最も高くなっているが、教育水準も高くなっている。総支出に占める教育支出の割合は13%以上であることが判明した。またカロリーがきちんと摂れない階層の中でよく見られるが、カロリー摂取ができていない階層の中にも食糧の摂り方が片寄っている。彼らはより簡単に手に入り、そして満腹ができる食糧として米とじゃがいもはよく食べている。また小麦、果物、卵、ミルク等は、価格が高いためほとんど摂取できていない。

一日の一人当たりカロリー摂取基準量は、バングラデシュの伝統的な摂取パターンで2,263Kcal、バランスとれているフード・バスケットで2,122Kcal、バングラデシュ栄養協議会によるフード・バスケットで2,280Kcal、世界銀行のフード・バスケットで2,122Kcal（別添2）であるが、カシャハル村の場合は2,171Kcalであった。また一日の摂取量はそれぞれ908gm、

¹² 1991—92年（5.735世帯）、1995—96年と2000年に、世界銀行とバングラデシュ統計局（BBS）は共同で14の地域（6都市部と8農村部）でサンプル調査を行った。1. Dhaka SMA（Standard Metropolitan Area）、2. Dhaka 地方の都市部、3. Dhaka・Mymensingh 県の農村部、4. Faridpur・Tangail・Jamalpur 県の農村部、5. Chittagong SMA、6. Chittagong 地方の都市部、7. Sylhet・Comilla 県の農村部、8. Noakhali・Chittagong 県の農村部、9. Khulna 地方の都市部、10. Barishal・Patuakali 県の農村部、11. Khulna・Jessore・Kushtia 県の農村部、12. Rajshahi 県の都市部、13. Rajshahi・Pabna 県の農村部、14. Bogra・Rangpur・Dinajpur 県の農村部。

920gm、934gm と832gm であるが、カシャハル村の場合は一番高く953gm となった。規定のカロリー摂取し、栄養もきちんと取るべきであるが、カシャハル村では、カロリー摂取はできた人でも、高価な食料品が入手できず、また栄養に対する知識が不足しているために片寄っている食事を摂っている。バングラデシュの他の貧困地域でも同様なカロリーと栄養が取れていないと考えられる。

表 4-1 カシャハル村の一日のエネルギー・食糧品と栄養摂取量（各年齢と性に合わせた）2007年5月
（単位：タカ）

食糧品			非食糧品	
食料品 (gm)	カシャハル村 の摂取パターン	食糧の価格 (タカ/Kg)	非食糧品	一人当たり 一ヶ月の支出
米	466	23	衣類	51
小麦	—	32	医療	88
豆類	18	78	交通費	150
野菜	175	7	教育	105
じゃがいも	121	20	燃料	15
油	23	78	—	—
砂糖	7	50	—	—
果物	—	—	—	—
魚	44	60	—	—
牛肉	11	150	—	—
卵	—	—	—	—
ミルク	—	—	—	—
玉ねぎ	39	30	—	—
その他（塩、にんにく、 しょうが、とうがらし）	49	8	—	—
摂取量の合計（gm）	953	—	—	—
エネルギー（Kcal）	—	2,171	—	—
一ヶ月の支出（タカ）	—	714（63.6）	—	409（36.4）
合計（タカ）	—	—	—	1,123（100）

注1) エネルギー（Kcal）の計算は、Quentin T. Wodon [1997], p.93を参考に作成。
（出所）現地調査により筆者作成。

5. データ分析と評価

DCI 法による貧困調査によると、1995-96年から2003-04年までの9年間で貧困率は6.6%低下し、貧困人口は5,740万人から5,529万人（貧困ラインを乗り越えた人は221万人で貧困人口の3.9%）に減少した。FEI 法によると同じ時期に貧困率は4.9%下がり、貧困人口は5,687万人か

ら5,684万人（貧困ラインを乗り越えた人は3万人で貧困人口の0.05%）に減少した。また CBN 法で見ると、1995-96年から1999-2000年まで5年間で貧困率は3.3%減り、貧困人口は6,425万人から6,374万人（貧困ラインを乗り越えた人は51万人で貧困人口の0.8%）に減少した。貧困人口で見ると、DCI 法による調査では、貧困人口はやや減少したが、FEI 法と CBN 法による調査では、ほとんど変わっていない。こうした違いが生まれる理由は、DCI 法ではカロリー摂取量だけで計算されるが、FEI 法と CBN 法では、一人当たり月間支出（食糧・非食糧）と一人当たり一日のカロリー摂取量に基づいて計算されることにある。現在バングラデシュ統計局は FEI 法を使用し、バングラデシュ統計局と世界銀行の研究者達も、1995-96年から CBN 法を貧困ラインの測定基準としている。筆者は、カシャハル村の貧困測定では CBN と同様に一人当たり月間支出（食糧・非食糧）と一人当たり一日のカロリー摂取量に基づいて計算を行った。

1995—96年に DCI 法、FEI 法と CBN 法の3つの測定基準によって調査が行われたため、この年度の貧困率について分析することにする。まず FEI 法と CBN 法は、食料および非食料品によって貧困率を測定しているが、CBN 法による調査では FEI 法より貧困率は6.1%（都市部では9.4%と農村部では8.8%高い）高くなっている。また CBN 法では、都市部の貧困率は35.0%、農村部の貧困率は56.7%で、農村部が21.7%高くなっている。一方 FEI 法では、都市部の貧困率は44.4%、農村部の貧困率は47.9%となり、ほとんど差が見られない。その理由は、農村部では貧困ラインが2,122Kcal、都市部では貧困ラインが2,112Kcal と、都市部で低く設定されているためであると考えられる。

一方、DCI 法ではカロリー摂取量が貧困ラインであり、FEI 法ではカロリー摂取量と非食料品も貧困測定基準となっているが、DCI 法では47.5%（都市部では49.7%と農村部では47.1%）であり、FEI 法では47.0%（都市部では44.4%と農村部では47.9%）であってほとんど差異がないものの、FEI のほうが低くなっていることから、非食料品が測定基準となっているに疑問が残る。また一般的に、バングラデシュでは農村部の方が貧困であるとされているが、DCI 法のほとんど調査で見ると、都市部の貧困率が高くなっている。またほとんど途上国の農村部の貧困率は高くなっているが、DCI 法で見るとバングラデシュだけが違っている。

DCI 法ではカロリー摂取量のみを基準としており、生活水準の一面しか表さず、個人の実際の消費水準を反映していないが、貧困ラインを用いたデータの各年度の比較が可能でありよく使われている。一方 FEI 法では、消費水準を反映しているが、その貧困ラインは時間や地域（都市部、農村部）をこえた同一商品の実質的購買力を表していない。またカロリー摂取量による貧困ラインを設定しているが、非食料支出に基づいた消費水準について明確にされていない。CBN 法では、指標が実際の消費内容を反映しているが非食料品に対しては具体的でない。またバングラデシュの貧困測定基準ではすべての年齢と性に対して同一のカロリー摂取量となってい

るが、これを適切であるかを考えることが重要な課題である¹³。

各貧困測定基準と調査する機関によってデータ収集方法が異なり、またサンプル地域も異なることから、これらの貧困率の推移に基づき適切な分析するのは困難である¹⁴。BBSの単独で行った調査と世界銀行によるものがどのような基準をもとに行われたか確認できなかったが、調査方法や調査対象となった地域が異なると、同一時期に調査が行われても異なる結果がでる可能性がある。しかしながら、CBN法がDCI法やFEI法より調査方法が明確になっているため、CBN法によって貧困率を測定するのが適切であると考えられる。

表5－1 バングラデシュの諸測定基準の長所と短所

測定基準	長所	短所
DCI法	・DCI法用いたデータの各年度の比較が可能である（1973年度からデータが存在する）。	・カロリー摂取量は生活水準の一側面のみしか表さず、個人の実際の消費水準を反映していない。
FEI法	・FEI法では実際の消費水準を反映している。	・貧困が時間やグループ（農村部・都市部）をこえた同一の実質的購買力を表していない。 ・非食糧品の項目は明確ではない。
CBN法	・CBN法では、実際の消費内容を反映している。	・非食糧品の項目は明確ではない。
世界銀行のMDGs	・ミレニアム開発目標（MDGs）では、2015年までに飢餓の半減、初等教育の完全普及、ジェンダー格差の排除、子供の死亡率削減、妊産婦の健康の改善等8つの目標を掲げている。	・「必要最低限の消費生活」は、各国や各国内の各地域それぞれの文化や平等的な所得基準は異なる。
グラミン銀行	・バングラデシュの76.5%の人は農村部に住居し、全人口の51.7%（別添3）は農業活動を行っているため効果的である。	・貧困率の削減、教育の改善、女性の自立、医療の改善等を目標しているが、カロリー摂取量という実際の消費水準や非食糧品に対する消費を反映していない。

（出所）国際協力銀行 [2001]、p.2、世界銀行 [2002a] と世界銀行 [2002b] を参考して作成。

¹³ タイの貧困ラインでは、年齢と性によって貧困ラインは細かく決められている。1—3歳男女ともに1,200Kcal、4—6歳男女ともに1,450Kcal、7—9歳男女ともに1,600Kcal、10—12歳男性1,850Kcalと女性1,700Kcal、13—15歳男性2,300Kcalと女性2,000Kcal、16—19歳男性2,400Kcalと女性1,850Kcal、20—29歳男性2,787Kcalと女性2,017Kcal、30—59歳男性2,767Kcal女性2,075Kcalと60歳以上は男性1,969Kcalと女性1,747Kcalとなっている。Thailand's Ministry of Public Health、Nanak Kakwani [2003]、p.7.

¹⁴ 世界銀行はBBSによるデータ収集・分析能力の改善を目的に1995—96年にHESを対象に技術支援を行い、データのまとめおよび分析プロセスの短縮化達成された（国際協力銀行[2001]、p.5）。

表5-2 バングラデシュにおける一人の一日の消費水準(食糧・非食糧)とカシャハル村の貧困層の消費水準

消費項目	1999年 PMS	2000年 HIES	2004年 PMS	2005年 HIES	カシャハル村
食料品	69.2	54.6	60.5	53.8	63.6
非食糧品	30.8	45.4	39.5	46.2	36.4
衣料	—	6.3	—	5.5	4.5
医療	1.6	—	3.0	—	7.8
教育	2.2	—	3.0	—	9.4
燃料・電気	—	6.8	—	6.0	1.3
住居(家賃等)	—	9.0	—	12.3	—
交通費	—	—	—	—	13.4
身の回り品	—	1.4	—	2.0	—
その他	27.0	21.9	33.5	20.4	—
一ヶ月の支出(タカ)	825	1,128	999.2	1,485	1,123
摂取量の合計(gm)	926	820.4	996	830.7	953
エネルギー(Kcal)	2283	2240	2308	2238.5	2171

(出所) Bangladesh Bureau of Statistics 「Statistics Bangladesh-2006,BBS 「KEY FINDINGS OF HIES 2005」, BBS 「Key Findings of the Poverty Monitoring Survey-2004」を参考と現地調査により筆者作成。

世界銀行は一日1米ドルの収入は貧困ラインとし、グラミン銀行は土地なし層ならびに、0.5エーカー未満の土地しか所有しない「機能上の土地なし」と呼ばれる階層を貧困であると指している。世界銀行とグラミン銀行はそれぞれの定義を主張しているが、識字率、ジェンダーの平等、子供の死亡率の低下、妊産婦の健康、保険などの改善も貧困ラインを乗り越えるための重要な課題であることを指摘している点で共通している。一方でバングラデシュ統計局は、貧困測定の基準とする DCI 法ではカロリー摂取量(貧困は2,122Kcal、最貧困は1,805Kcal)を、また FEI 法と CBN 法では一人当たり月間支出(食糧・非食糧)を基準とし、貧困率の測定を行っている。

世界銀行はすべての国に適用できる一日の共通の収入、グラミン銀行は土地所有と DCI 法では、一日のカロリー摂取量を貧困の測定基準とし単純になっている(表5-1)が、FEI 法と CBN 法層消費量(食糧・非食糧)を貧困ラインと設定し、実際の消費内容を反映している。ところで、FEI 法と CBN 法では、非食糧品の項目は明確になっていないことから測定基準が変わると非食糧品による比率が変化する(表5-2)。

最後に、「貧困ライン」について言及したい。貧困ラインは、基本的なニーズが充足されていない状態である。基本的ニーズというのは、食料と衣類、居住、教育と医療、燃料およびその他の雑費に対するニーズのことであり、最貧困ラインは食料と衣類に対する消費が充足されていない

い状態と筆者は規定する。貧困測定には、一人当たりのカロリー摂取量と非食料品として衣類、教育と医療、燃料に対する消費を基準とし、そして雨をしのげる屋根のある家を持っている人は貧困線を乗り越えているとする。

おわりに

バングラデシュの貧困率は減少しているが、絶対的貧困者人数は10年前とほぼ変わっていない。世界銀行は、ミレニアム開発目標（MDGs）で2015年までにバングラデシュの貧困率を半分に削減するという目標を掲げているが、実際にこれを達成するには24年をかかり、完全な貧困撲滅には81年（過去5年間で貧困削減は0.52%であり、農村部では0.32%である）もかかるとも言われている（The Daily Ittefaq, 2005年9月14日）。

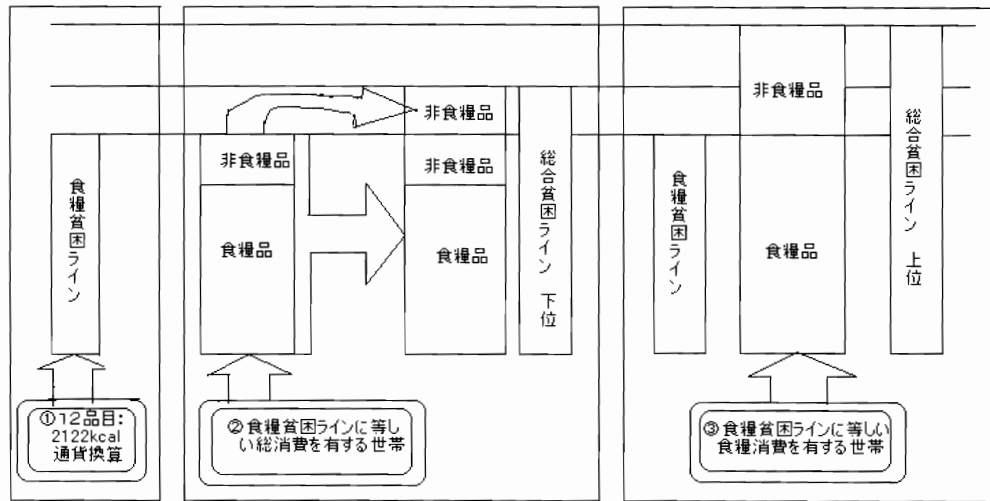
バングラデシュの貧困測定基準はカロリー摂取量と総消費支出（食料・非食料）となっているが、基本的にカロリー摂取量にしか触れていない。まず、どの測定基準を使うかを明確にし、そして調査対象となるサンプル地域を増やし、そしてバングラデシュ統計局（BBS）だけではなく、国際機関やNGO機関と共同で調査し分析するべきである。また貧困測定基準には、年齢と性そして体形と職業形態を配慮によって貧困ラインを細かく決める必要がある。

今回の調査で判明したのは、以下の3点である。

- (1) 一日のカロリーを取れていない人だけではなく、カロリーをきちんと摂れた人も、食糧の摂り方が片寄っている。
- (2) 一部の資料以外、非食糧品についてほとんど触れていないが¹⁵、カシャハル村では総消費量の63.6%が食糧品で、残りの36.4%の消費は非食糧品で、具体的には衣類、医療、交通費、教育、燃料等に支出である。
- (3) バングラデシュ統計局の調査では、1999年と2004年のF E I法のP M Sでは非食糧品は総消費量の30.8%と39.5%であり、2000年と2005年のC B N法のH I E Sでは非食料品は45.4%と46.2%になっている。P M Sの非食糧の項目では、教育・医療・その他となり、H I E Sの項目では、衣料・燃料と電気・家賃・身の回り品・その他となり、非食糧について明確になっていない。よって、測定基準が変わると非食糧品による比率が変化する。

¹⁵ 注10では、非食糧品は、食糧品の25—40%であり、P M SとH I E S（表5—2）では30.8%—46.2%となっている。

別添 1 : CBN法による貧困ラインの構造



(出所) 国際協力銀行 [2001], p.56.

別添 2 一日のエネルギー・食料品と栄養摂取量 (各年齢と性に合わせた)

食料品 (gm)	バングラデシュの 伝統的な摂取 パターン	バランスとれている フード・バスケット	バングラデシュ栄養 協議会による フード・バスケット	世界銀行のフード・ バスケット
米	480	343	390	397
小麦	43	87	100	40
豆類	14	37	30	40
野菜 (葉菜)	30	133	—	—
野菜 (非葉菜)	125	83	125	150
じゃがいも	47	37	100	27
油	9	11	20	20
砂糖	10	10	10	20
果物	25	23	50	20
魚	43	32	45	48
肉	12	14	20	12
卵	3	58	14	—
ミルク	31	30	30	58
玉ねぎ	10	10	—	—
にんにく	—	2	—	—
しょうが	—	1	—	—
とうがらし	7	9	—	—
その他	19	—	—	—
エネルギー (Kcal)	2, 263	2, 122	2, 280	2, 122
蛋白質 (gm)	79 (45.3)	68 (45.3)	66 (45.3)	83 (45.3)
カルシウム (mg)	326 (450)	596 (450)	415 (450)	430 (450)
鉄分 (mg)	5 (7.6)	10.75 (7.6)	9.25 (7.6)	8.25 (7.6)
ビタミン C (mg)	47 (26)	104 (26)	67 (26)	57 (26)
ビタミン B1 (mg)	1.65 (0.9)	1.8 (0.9)	1.78 (0.9)	1.48 (0.9)
ビタミン B2 (mg)	0.91 (1.35)	1.35 (1.35)	1.19 (1.35)	0.96 (1.35)

(出所) Pk.Md.Motiur Rahman and Md.Shahadut Hossain [2000-2001]; Quentin T. Wodon [1997], pp.66-101より作成。

別添 3 GDPに対する業種別比率と労働者比率

業 種	1995－96	1999－2000	2002－2003	2004－2005
GDPに対する業種別比率				
農業	25.7	25.6	23.5	21.9
工業	24.9	25.7	27.2	28.4
サービス業	49.4	48.7	49.3	49.7
合計	100.0	100.0	100.0	100.0
GDPに対する労働者比率				
農業	48.9	50.8	51.7	—
工業	13.2	13.1	13.6	—
サービス業	37.9	36.1	34.7	—
合計	100.0	100.0	100.0	—

(出所) Bangladesh Bank (バングラデシュ中央銀行) Annual Report 2005, pp. 16－24
より作成。

補足

貧困ギャップ、二重ギャップの推移

貧困ギャップ（貧困深度）：貧困ギャップは、全貧困人口の所得または支出が貧困ラインに到達するために必要な追加額（所得不足額）の平均値を貧困ラインで割った比率として計算される。非貧困ラインとのギャップはゼロと計算される。貧困ギャップは貧困層が貧困ラインからどの程度下位に位置するかを推定するものである¹⁶。貧困を集計的に評価する際には、貧困ギャップを考慮する必要がある。

バングラデシュ統計局（BBS）が貧困ギャップを測定する際に使用している指標（B. Senの指標）¹⁷。貧困ギャップ（所得指標）をI、貧困ライン支出額をX*、貧困層の収入をM*とすると、

$$I = \frac{X^* - M^*}{X^*}$$

¹⁶ 国際協力銀行[2001]、p.10.

¹⁷ Nasreen Khundker, Wahiddudin Mahmud, Binayak Sen, and Monawar Uddin Ahmed [1994]、p.10.

表 補足1 貧困ギャップ、二重貧困ギャップの推移(1983-84年～2003-04年度)

	1983-84	1985-86	1988-89	1991-92	1995-96	2000	2004
貧困ライン							
貧困ギャップ(貧困深度)							
全国	16.5	12.3	15.4	17.2	14.4	12.9	10.9
都市部	14.3	10.9	11.1	12.0	9.2	9.5	11.1
農村部	16.8	12.5	16.0	18.1	15.4	13.8	10.9
二重貧困ギャップ(貧困の重度)							
全国	6.6	4.2	5.8	6.8	5.4	4.5	3.9
都市部	5.8	3.8	3.8	4.4	3.4	3.4	4.5
農村部	6.7	4.3	6.1	7.2	5.7	4.8	3.8
最貧困ライン							
貧困ギャップ(貧困深度)							
全国	10.4	6.9	9.9	10.7	7.9	7.3	—
都市部	6.5	3.7	4.2	4.9	2.8	3.8	—
農村部	10.5	7.4	10.8	11.7	8.9	8.2	—
二重貧困ギャップ(貧困の重度)							
全国	3.7	2.1	3.4	3.9	2.6	2.3	—
都市部	2.3	1.0	1.2	1.5	0.8	1.2	—
農村部	3.9	2.3	3.8	4.3	3.0	2.6	—

注) 1983-84年～1995-96年C B N法、2000年H I E S-2000、2004年P M S-2004。

(出所) Ministry of Finance -1999-2004、国際協力銀行2001年 p.11(World Bank、Bangladesh : From Counting the Poor to Making the Poor count -1998)より作成。

貧困二重ギャップ(貧困の重度)：貧困の二重ギャップは、貧困者間の不平等を考慮に入れた指標であり、貧困ラインまでのギャップの2重の加重平均として測定される¹⁸。

表3-5に示したとおり、貧困ラインでは、貧困ギャップおよび二重ギャップを見ると、1983-84年16.5%（都市部では14.3%、農村部では16.8%）と6.6%（都市部では5.8%、農村部では6.7%）であったが、2003-04年に10.9%（都市部では11.1%、農村部では10.9%）と3.9%（都市部では4.5%、農村部では3.8%）に減少した（21年間で5.6%と2.7%を減少した）。また貧困ギャップおよび二重ギャップは、一般的に都市部より農村部のほうが高いとされているが、2003-04年に限っては農村部より都市部のほうが0.2%と0.7%が高くなっている。これはサンプル調査となった地域が異なったかデータ分析方法が異なったためであると考えられる。

最貧困ラインでは、貧困ギャップおよび二重ギャップを見ると、1983-84年10.4%（都市部で

¹⁸ 国際協力銀行[2001]。

は6.5%、農村部では10.5%)と3.7%(都市部では2.3%、農村部では3.9%)であったが、1999-2000年に7.3%(都市部では3.8%、農村部では8.2%)と2.3%(都市部では1.2%、農村部では2.6%)に減少した(17年間で3.1%と1.4%を減少した)。最貧困ラインでも貧困ギャップと二重ギャップは都市部より農村部ほうが高くなっている。

参考文献

日本語文献

1. アマルティア・セン (池本幸生・野上裕生・佐藤仁 訳) [1999]. 『不平等の再検討』岩波書店。
2. アマルティア・セン (黒崎卓・山崎幸治 訳) [2000a]. 『貧困と飢饉』岩波書店。
3. アマルティア・セン (石塚雅彦 訳) [2000b]. 『自由と経済学』日本経済新聞社。
4. 絵所秀紀・山崎幸治 [1998]. 『開発と貧困』日本貿易振興会 アジア経済研究所。
5. L. シャッツマン=A. L. ストラウス (川合隆男 監訳) [1999] 『フィールド・リサーチ』、慶應義塾大学出版会。
6. 黒崎卓・山形辰文史 [2003]. 『開発経済学 貧困削減へのアプローチ』日本評論社。
7. 国際協力銀行 [2001]. 『貧困プロフィール バングラデシュ人民共和国』国際協力銀行 http://www.jbic.go.jp/japanese/oec/envIRON/hinkon/pdf/Bangladesh_fr.pdf、より入手、2005年10月20日。
8. 国際協力事業団 [2003]. 『国別貧困情報 バングラデシュ』、国際協力事業団 (企画・評価部)、<http://www.jica.go.jp/global/poverty/profiles>、より入手、2005年10月20日。
9. ジェラルド・M・マイヤー・ジョゼフ・E・スティグリッツ (関本勘次・遠藤正規・国際協力研究グループ 訳) [2003]. 『開発経済学の潮流 将来の展望』シェプリング・フェアラーク東京。
10. 世界銀行 [2002a]. 『ミレニアム開発目標 (MDGs)、貧困のない世界を目指して』世界銀行東京事務所、http://www.worldbank.or.jp/03agenda/05mdg/mdg_top.html、より入手、2005年10月27日。
11. 世界銀行 [2002b]. 『ミレニアム開発目標について』世界銀行東京事務所、<http://www.worldbank.or.jp>、より入手、2005年10月27日。
12. 鈴木興太郎・後藤玲子 [2001]. 『アマルティア・セン —経済学と倫理学—』実教出版。
13. 田中浩 [1997]. 『現代世界と福祉国家：国際比較研究 (福祉国家・バングラデシュ)』御茶の水書房、<http://www.ne.jp/asahi/bhalo/news/nonsense/welfare.html>、より入手、2005年10月20日。
14. 日本外務省 [2005]. 「バングラデシュ人民共和国」、<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/bangladesh/index.html>、より入手、2005年9月27日。
15. 藤田幸一 [2005]. 『バングラデシュ農村開発のなかの階層変動』京都大学学術出版会。
16. ムハマド・ユヌス & アラン・ジョリ (猪熊弘子訳) [1997]. 『貧困なき世界をめざす銀行家』早川書房。

17. ラマン・モハマド・アルマヌル[2005].「バングラデシュの貧困緩和におけるマイクロクレジットの役割ーボイラ村（ボグラ県）の調査を通じてー」、『岡山大学大学院文化科学研究科紀要』、第19号、2005年3月、pp.207-223。
18. ラマン・モハマド・アルマヌル[2007].「バングラデシュの農村金融の実態とマイクロクレジットの役割ーボグラ県ボイラ村とカシャハル村の調査を通じてー」、『岡山大学大学院社会文化科学研究科紀要』、第24号、2007年11月、pp.49-63。
19. リオネル・ストレリュ（益戸欽也・小池一雄 訳）[1981].『富める国の貧困』サイマル出版会。

英語文献

1. Asian Development Bank [2002]. 'Bangladesh: Progress in Poverty Reduction', Background Paper, Bangladesh Development Forum, Paris, March 13-15, 2002, ADB Web Siteより入手。
2. Asian Development Bank [2004a]. 'BANGLADESH -Gender, Poverty, and the Millennium Development Goals-Country Gender Strategy', Bangladesh Resident Mission and Regional and Sustainable Development Department, Asian Development Bank, Philippines: Manila, 2004, ADB Web Siteより入手、2005年10月27日。
3. Asian Development Bank / Government of Japan [2004b]. 'Economic Growth and Poverty Reduction in Bangladesh', Asian Development Bank (Bangladesh Resident Mission) / Government of Japan (Embassy of Japan in Bangladesh, JBIC Dhaka Office and JICA Bangladesh Office,) April 2004, ADB Web Siteより入手、2005年10月27日。
4. Asian Development Bank [2005]. 'Asian Development Outlook 2005-Bangladesh-ADB', <http://www.adb.org/Documents/Books/ADO/2005/ban.asp>, より入手、2005年10月27日。
5. Bangladesh Bank [2003-2004]. *Annual Report*, Bangladesh Bank, Bangladesh: Dhaka.
6. Catherine H. Lovell [1992]. *Breaking the Cycle of Poverty. The BRAC Strategy*, University Press Limited, 1992.
7. Government of Bangladesh / United Nations [2005]. *Millennium Development Goals—Bangladesh Progress Report*, February-2005.
8. Hasnat Abdul Hye [1996]. *Below the Line. Rural Poverty in Bangladesh*, University Press Limited, 1996.
9. Hossain Zillur Rahman and Mahabub Hossain [1995]. *Rethinking Rural Poverty*, University Press Limited, 1995.

10. Mark M.Pitt, Shahidur R.Khandker and Jennifer Cartwright [2003]. 'Dose Micro-Credit Empower Women?. Evidence from Bangladesh', Policy Research Working Paper, No.2998, The World Bank, Development Research Group, Rural Development, March 2003, World Bank Web Site より入手、2005年10月20日。
11. Ministry of Finance [2004]. *Bangladesh Economic Review*, Ministry of Finance.
12. Nanak Kakwani [2003]. 'Issues in Setting Absolute Poverty Lines', *Poverty and Social Development Papers*, Aaian Development Bank. Web Site より入手。
13. Nasreen Khundker, Wahiddudin Mahmud, Binayak Sen, and Monawar Uddin Ahmed [1994]. 'Urban Poverty in Bangladesh: Trends, Determinants, and Policy Issues', *Asian Development Review*, Vol.12, No.1, p.1-31, 1994.
14. Pk. Md. Motiur Rahman and Md. Shahadut Hossain [2000-2001]. 'Determination of Balanced Food Bundle and Absolute Food Poverty Line: An Optimization Approach', *The Indian Economic Journal*, Volume 48, No 4, p.18-26, April-June 2000-2001.
15. Quentin T. Wodon [1997]. 'Food Energy Intake and Cost of Basic Needs: Measuring Poverty in Bangladesh', *The Journal of Development Studies*, Vol.34, No.2, December 1997, London: Frank Cass, pp.66-101.
16. Shahidur R.Khandker [2003]. 'Micro Finance and Poverty', Evidence Using Panel Data from Bangladesh, The World Bank, Development Research Group, January 2003, World Bank Web Site より入手、2005年10月20日。
17. World Bank [2002]. 'Poverty in Bangladesh: Building on Progress', Report No. 24299- BD, Poverty Reduction and Economic Management Sector Unit South Asia Region, World Bank, December 2002, Document of the World Bank and Asian Development Bank, World Bank Web Site より入手、2005年10月20日。
18. World Bank [2004a]. 'Poverty Alleviation Microcredit Projects', The World Bank, February 2004, <http://www.worldbank.org.bd>, より入手、2005年10月27日。
19. World Bank [2004b]. 'Total GDP-2004, Population-2004', <http://www.worldbank.org.bd>, より入手、2005年10月27日。
20. World Bank [2005]. 'Bangladesh Country Brief', The World Bank Group, <http://web.worldbank.org/> より入手、2005年10月20日。

ベンガル語文献

1. Bangladesh Bank [2002-2003]. *Annual Report*, Bangladesh Bank, Bangladesh: Dhaka.

2. BRAC [1995-2002]. *Nirjash*, Summary of selected BRAC research report of 1991-1999, BRAC, Research and Evaluation Division, Number 1-10, March 1995- February 2002, Bangladesh: Dhaka.
3. Centre for Policy Dialogue [1998]. *Crises in Governance : Development 1997*, The University Press Limited, Bangladesh: Dhaka, July 1998.
4. Dr. Muhammad Yunus [1982]. *Jarimon of Beltoil Village and Others. A Collection of Biographical Sketches of 16 Poor Landless Women of Bangladesh*, Grameen Bank, Bangladesh: Dhaka.
5. Ministry of Finance [2003]. *Bangladesh Economic Survey-2003*, Ministry of Finance.
6. Ministry of Finance [2005]. *Bangladesh Economic Review-2005*, Ministry of Finance.
7. Professor' s Current Affairs [2005]. *Monthly Professor' s Current Affairs*, July-2005, Bangladesh: Dhaka.

略語一覧

ADB	Asian Development Bank
BB	Bangladesh Bank
BBS	Bangladesh Bureau of Statistics
BRAC	Bangladesh Rural Advancement Committee
CIRDAP	Centre for Integrated Rural Development in Asia and Pacific
CPD	Centre for Policy Dialogue
HES	Household Expenditure Survey
HIES	Household Income & Expenditure Survey
JBIC	Japan Bank of International Cooperation
JICA	Japan International Cooperation Agency
MAP	Monitoring Adjustment and Poverty
MDGs	Millennium Development Goals
PMS	Poverty Monitoring Survey
UNDP	United Nations Development Programme
WB	World Bank